



早稲田大学国分寺校友会第6回総会報告



出席者名簿

(敬称 略・順不同)

講師 早稲田大学名誉教授 文学博士 仁戸田 六三郎
 来賓 中村 高一 石川 要三

近隣校友会

八王子早稲田会	片桐 進	早大国立校友会	大賀 秀夫
立川稲門会	砂川 昌平	早大府中校友会	松本 三郎
小金井稲門会	稲垣 信雄	早大川崎校友会	安倍 省吾

天安野	ヨシ子	岡部	誠一	白木	博雄	百瀬	道子
安食	得郎	大加	弘雄	須田	茂義	(旧姓) 瀬田	細谷
板斎	篤史	加藤	喜正	田中	康吉	谷山	田成
岩橋	恒二	笠原	喜正	富林	久仁	山水	下口
鶴井	実靖	菅原	省佳	箱岩	宮博	水若	谷月
梅沢	正哲	栗山	清知	平堀	忠至	高永	橋田
胡谷	保紀	黒今	仁二	堀細	公三	秀秀	田永
上大		斎塩	雄	村山			
森田							

昭和五三年六月三日(土曜日)午後四時三〇分より、国分寺パークレイン・一階・ミーティングルームに於いて、早稲田大学国分寺校友会・第六回総会を開催した。会長・中藤俊一氏がよんどころない用事のため、校友会始まって以来、初めて欠席されたが、板橋恒二副会長が会長代理として総会挨拶をされ、続いて須田茂雄氏を議長に選出、議事に入り、梅田浩正幹事長より会務及び一年間の経過報告を行い、堀田博靖会計幹事より会計報告があり、満場異議なく総会を終った。

五時より、早稲田大学名誉教授・文学博士・仁戸田六三郎先生に「早稲田大学創立一〇〇年に憶う」



という当会よりの依頼題名による講演をして頂いた。(講演概要 別記)

先生一流の風刺とユーモアを交え、校友一同、感激あり、爆笑あり。四五分の講演が瞬時のうちに終わってしまった感であった。

六時よりは、箱岩徹氏を司会役に、村山公三顧問の音頭によって乾盃、塩谷信雄名誉会長の挨拶、来賓 中村高一氏、石川要三氏の祝いの言葉、近隣校友会代表者の挨拶の後、懇談会が始まった。

会場には早大切手研究会よりの、昭和三二年より四三年に亘る人気漫画家による早稲田大学記念絵はがき、二四枚(横山隆一、清水昆、岡部冬彦、トシ

昭和五二年度収支決算報告

収入の部				支出の部					
52.	4.	1	前期繰越	12,291	52.	4.	14	写真代	10,500
	5.	16	ワセダサロン食事代 残余金寄附	11,550	5.	23	総会飲食代	160,000	
	5.	23	総会会費 年会費 寄附金	238,000			総会準備諸掛	14,330	
	7.	21	年度会費(3人分)	4,500	7.	2	総会写真代	23,500	
	8.	17	利息	402	8.	15	名簿印刷代	78,800	
	8.	17	名簿広告収入	90,000	8.	20	会報印刷費	17,100	
	12.	13	忘年会費 年会費 寄附金 オークション収入	231,870	12.	10	忘年会飲食代	120,000	
					12.	30	忘年会写真代	16,000	
					53.	2.	27	香典、為替手数料	5,150
						3.	31	次期繰越	113,233

558,613

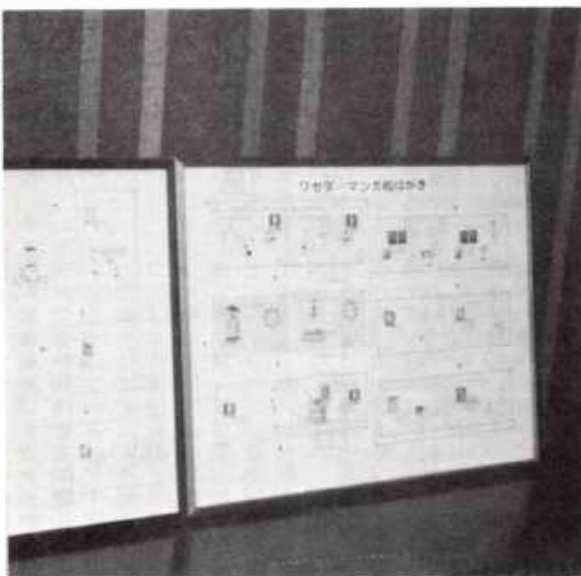
558,613

- コ・ムトー、長谷川町子、根本進、手塚治虫、富永一朗、佃公平、サトウ・サンペイ、久里洋二、各二枚づつ」と梅田浩正幹事長所蔵の早大関係図書（早稲田一〇〇年資料）を展示した。
- 記念絵はがきは切手研究会OB黒川清知氏のお骨折りによるものであり、図書目録は左の通り。
- 一、半世紀の早稲田 早大出版部昭7年刊
- 二、早稲田大学七〇年誌 早稲田大学昭27年刊
- 三、早稲田大学八〇年誌 昭37年刊



- 四、「小野 粹」早大九〇年記念出版 昭47年刊
- 五、紺碧の空なお青く 早稲田学生新聞会昭52年刊
- 六、「近代日本の早稲田人五五〇人」
- 七、「早稲田大学史」早稲田大学史編集所昭50年刊
- 八、随筆「早稲田の森」 井伏鱒二 新潮社
- 九、早稲田の学風 高野善一 早大出版部
- 一〇、大隈重信のことば 高野善一編
- 一一、早稲田の政治家たち 川崎秀二
- 一二、野球の公安部磯雄先生父 伊丹安広

- 三、テレビをダメにした早稲田五人男 青島・永・野坂・野末・大橋
- 三、大隈重信叢書 第一巻―第五巻 早大出版部
- 四、大隈研究 第一輯―人間大隈― 早大隈研究室昭26年刊
- 五、早稲田外史 木村 毅 講談社
- 六、国憲汎論 小野 粹 日本評論社
- 七、文書より観たる大隈重信侯 渡辺幾次郎 早大出版部



(以上図書ご希望により貸出します)

林 久仁於パークレイン社長も今日は専らホスト役に廻って、校友一同、飲み、食い、しゃべり、和やかな、若々しい雰囲気の中に九時を過ぎ、この会に合わせるように欧州から帰国された、東芝の大橋忠弘氏（早大マンドリンクラブOB）の指揮により「都の西北」の大合唱。尽きない名残りのうちに閉会した。

(写真撮影は安食 得郎氏)





皆様ご存知のごとく、仁戸田 六三郎先生は本年三月、定年のため教壇から去られ、現在名誉教授でいらっしやいます。その定年のご心境については「文芸春秋」五月号や「早稲田学報」昨年一二月号に書いておられるので、お読みになった方もおられると思います。が、ただ「淋しい」の一語につきるとおっしゃっておられます。

先生の講義はいつも満員、目白の女子大生もワザワザ遠征して聴講した位で、席を確保するのが大変という盛況ぶりでした。ご専攻は固苦しい宗教哲学、昭和二八年には「親鸞とバスキルの宗教理論の研究」で文学博士号をとられております。ご趣味はクラシック音楽と小唄、ご嗜好はお汁粉とお酒、まことに先生らしい取り合せです。本日の演題は「早稲田大学創立一〇〇年に憶う」ですが、先生の最近のご著書の題ではありませんが、「タテマエ」が出るか、「ホシネ」がでるか期待して拝聴したいと思っております。(黒川 清知)

早稲田大学創立一〇〇年に憶う

早稲田大学名誉教授 文学博士 仁戸田 六三郎



只今ご紹介にあづかりました仁戸田というものであります。本日は総会が静粛に、和やかな雰囲気うちに無事終了しまして誠にめでとうございます。そこまでは良かったんですが、しかし、そのあとに僕のようなものが出て来た。これが良くない。特に出しものが「早稲田大学一〇〇年に憶う」なんてドデカイ題がついている。これは僕のような会社でいへば平社員、大学でいへば平教授ばかりしかやっていない人間がやるのはおかしい。これが総長さんとか学部長さんとか下に長の字の付く人がやるんなら良いのだが、僕のように平教授、ひらというの風は吹くままにひらひらしているうちに定年になってしまったような者

が、こういう格調の高い話は出来るものではない。しかし、角度を変えていへば、みんな早稲田の飯を喰った、今ちやパンを喰っている奴もいるが、一宿一飯の義理のある間柄であり、そして早稲田も一〇〇年になんなんとしている。だから早稲田の門をくぐった人間なら、みんな「早稲田一〇〇年に憶う」ということについて語ってもよいと思うし、また、きわめて当然のことであると思う。

ガウは悪いが中身はたしか

昔の教授は良かったネ

僕は今の総長の村井先生といっしょに、よく前の総長時子山先生の後について寄附金集めに歩いたんですけど、僕が行くと奇附金の集りが悪い、中には僕が早稲田の教授の一つの標準のように思われると困るから遠慮してくれなんていうものもある。また、僕のことを勝手に早稲田の名物教授だなんて名をつけているらしいが、僕の名物の名は名ではなくて迷だなどと陰口をきいているらしいが、そんなことはどうでも良い。

この前、関西に参りまして、旧交を温め人間関係を更に密にするための会というのに出たんですが、その時、皆さんにいわれました「もう昔のような早稲田タイプの先生はあなただけで残りですネ」と、これを別の言葉でいへば「明治は遠くなりにけり」ということになるわけで、まさにその通りであります。僕も文学部に今年三月までいたんですが在職期間は四六年一ヶ月なんです。が、端数を切捨てるから四六年ということになるらしい、切り上げてくれれば四七で忠臣蔵の義士の数に合うところなんです。ご存知のように今は男女共学ですから男盛りの先生や、年増の女の先生方は実にカッコ良い、講義も筋が通っていて上品です。僕が早稲田に入った当時とは大分違っている。酒を飲んで、ぐうたらで、講義の時間に遅れて来たんだから、せめて終わる前は早く切り上げよう、とか、当時は暖房にタルマストロップを使っていたんですがこれを椅子と間違えて講義の途中で腰をかがけ、火傷して講義をめちゃめちゃにした先生なんていたものですが、講義の内容は実に濃い、素晴らしい講義を聞いたものです。

なじかには知らねどジンとくる

老侯の顔に心うばわれ

僕の親父は佐賀の出身で、大隈老侯とは遠縁に当たっていたもので、僕も子供の時分にはよく親父に連れられて大隈さんの屋敷に今の大隈会館のある、あの屋敷へ行っただんです。僕が覚えてるのは、あの老侯の顔を下から見上げた時に、への字にむすんだすごくでっかい大隈さんの口が印象的で、言っていることはちっともわからなかったけれど感動を覚えた。なじかには知らねど僕は大いに感銘を受けたんです。そんなものに僕は早稲田カラーというのを見たんです。

そのころは官尊民卑で、私立の大学なん

でものは刺身でいえば、ツマみたいなものにしか考えられていなかった。僕の親父は古い東大の法学部出身だったんで、大隈さんをすごく尊敬していたんですが、早稲田へ行くとはいわない。やっぱり東大へ行けという。おふくろも親父は酒ばかり飲んでいて駄目だから、あなたは東大へ入って立派な人になって頂戴とくどかれ、三回受けただけが落ちちゃった。親父は怒るし、おふくろは泣くし、いやはや大変なことだった。ずっと以前、NHKの放送で、入試のストレート組と浪人組の座談会があり、僕は浪人組の代表をやらせられたもんだから家へ帰って息子に肩身がせまいとボヤかれて往生しました。

ボクはやっぱりワセタ型

早慶戦は引分けを

そんなわけで一高を受けた時、予備に早稲田と慶応を受けたんです。わかんないもんで、一高は落ちたが、早稲田と慶応には受かってしまった。そこで一日置きに両方の学校へ通っていたら、親父はもったいないから止せという、おふくろは、もう一年浪人したと思えばいいでしょうということ。で両方の学校へ通っていた。その当時は慶応さんは銀座で遊んで、早稲田は新宿、僕は慶応の経済学部の子科に入っていたんだが、学生がみんなのっぺりしててネ、もてるんだが、だから早稲田の方が性分に合っているんで慶応を止めてしまった。そんなわけで、僕は慶応さんにも義理がある。だから早慶戦はどちらが負けても面白くない。引分けを希望しているんだが、そうはいかない。そこで早慶戦は見ないことにしている。

親父は酒が切れて死に

不幸ボクはまだ生きています

僕はいまでも早稲田に入って良かったと思っている。僕の講義を受けている学生がよく、早稲田に入って田舎へ帰っても肩身が広いなんていっているのを聞いて、へーと思うんだ。初めは法学部へ行こうと思っていたんだが、刑法のえらい先生が一人を見たなら泥棒と思え。なんて教えるもんだから、こいつは駄目だつてんで、高等学院から学部へ行く時に文学部に転向してしまっただけです。こんなわけでチグザグの経過を辿って、昭和六年に大学を出て、貧乏を覚悟で先生になった。親父は戦時中だったんで酒が切れて死んだもんだから、息子の僕には酒を飲み過ぎて死ね、といわれたんですが、給料が安いもんだから酒を飲み過ぎることが出来ず、未だに生きています。そんなことからいろいろな方面から大学や学生についての座談会やら何んやらと引っぱり出されているんです。

視、聴覚が優先する時代

心や頭はいらぬのか

或るマスコミの座談会で、大学にスクールカラーはあるかということをやったんですが、前向きな評論家の先生方は、今や既にスクールカラーはなくなっている。いやスクールカラーは立派に存在する。ということ。で丁々発止と議論を戦わさせて販売部数を増やそうとしたらしいんです。ま、そういえば、早稲田にはマスコミ関係の人が多い、それと政治家ですね、お役人は少な

い。こんなことにも早稲田のスクールカラー」というものがあるように思えるんです。今は目で見て物を判断する傾向が強いんじゃないですか、そういう意味では今の学生はみんな同じ様なかっこうをしているから、スクールカラーということも同じです。マルクハンという人が、現代はエレクトロニクスの時代で、電波産業が飛躍的に発達し、宇宙衛星をとばして、その日のことはその日にわかるという情報化社会だといえます。これは高度成長期にはメリットとして作用しますが、現今のように円高不況の時には、むしろデメリットになっていると思います。僕はその方の専門家ではありませんが、そう思うんです。現代は感覚で判断する。目と耳でとらえたことが、人間の心の奥にまで行かないで途中で止まってしまうので、価値観が大分変わって来ている。例えば食パンは白い、沢庵は鮮やかな黄色であり、ご婦人は全部人工着色している。こういうものには感覚が鋭敏に働く、つまり、目で見、耳で聞いた、英語でいえばアピランス、すなわち表面に現れたものに対しての価値評価しにくい。欧米においてはアピランスが価値判断の最初の条件だといっているんです。僕はこれにイチヤモンをつけようとは思いませんが、しかし、この感覚でとらえた後にどうするかということになる、ウツ寒いものを感じざるを得ないので、僕は早稲田の精神というものは目や耳でとらえることのできない心にジンと来るものがあるんだと思うんです。

僕は食パンはあんなに白くしなくても良いし、沢庵も喰べておしいければ良いんであんな鮮やかな黄色にする必要はないと思うんです。僕の教え子の学生から、うまい沢庵を送って来た。古くなったのでカビが生

えている。息子は汚ないから捨てろというし、僕は洗って喰うということで親子の断絶が始まった。洗って喰ってみるとすごくうまい。又欲しいといったら三本送って来た。三本以上は目方がかかり、送り賃が高つくから三本で我慢しろといってきた。非常に正直である。早稲田の人間は正直である上に馬鹿がつくほど正直である。現代はみんな利巧になっている。僕は沢庵談義を通しての世相である。たしかに目で見て美しいし、食べて美味いというものもありますが、天は二物を与えずで、目に見てはきたないが、喰ってうまいということのほうが僕はうれしいし、これが早稲田のタイプだと思ふ。

判断の基準は数字

型式にとられない早稲田マン

目で見、耳で聞いて直感的に物の善悪を判断する。そしてそれを表すのに数字を使う。だから美人というものは数字でまわす。僕は前に美人コンテストの審査員に選ばれたことがある。八等身で、よく育った女性を見るのは悪いことではない。身長いくら体重いくら、ヒップ、ウエスト、バストと五つ通りの数字をあらわした表を渡されて、これを基準にして審査をしろというが心の美しさというものは何も書いてない。僕は心の美しさを何故審査の対象にしないのかといったら、軽べつの目ざしで、心の美しさは数字では表わせませんときた。そこで僕は馬鹿々々しくなつて中座してしまつた。体制を容認し、型式に順応しないで、自分の考えを生かそうとする。早稲田の人間にはこういうところがある。

ホソネをすぐ出す

早稲田型発育不全

或る婦人雑誌の座談会で、新しい男女の交際についてやったことがあった。ご立派な文化人、評論家達が集まりました。純潔の問題で、女性の処女性が問題になった。ああいうことは封建時代の古い考え方なので、愛情さえあれば早くなくしたって良いとかなんとかいうんですよ。僕はカチンと来て、大体今日の集りに男ばかり集っているのはおかしい、女性も入れて慎重に話すべきだといったら、あんな学校の先生だから頭が古いときた。ところが、座談会が終ってビールを飲んで雑談に入ったら、私のところの娘はこうなつては困るっていうんだ。早稲田の人間はすぐ本懐をいってしまつて、建前になれないところがある。僕なんかは早稲田の先生になつてしまつて発育不全のところがあるらしい。

漫画ブームの影響

早い変身が現代の若者

目ざとく、耳ざとくなつて数字で価値を決定する現代は精神面が足りない。いいかえれば、感覚から直ぐに行動に移つてしまふ。頭を通さない。昔は犯罪者や自殺する者は前もって徴候があつてわかつたもんです。ソワソワしていると、食欲がないとか。いまは全然わからない。昨日まで愉快であった奴が突然自殺してしまうようなことがある。精神的フレキシビリティがないんだ。お互に扉門関係だからいえるんだが、まだまだ僕にいわせれば、分別と

ますか、精神面を重視するということは早稲田にはあると思うんです。

僕は不良少年の補導で滝橋署から顧問にまつり上げられたことがあるんですが、良く調べたもので、あいつは昔不良だったからというんでしょが、不良のこととは不良が良くわかるでもいうんでしょ。不良というものもやっぱり感覚だけが鋭敏で、直ぐトサカに來ちやうということ。現在の漫画ブームもその一つで、感覚だけで判断するという傾向にあるようです。品物も内容よりも包装、ラッピングペーパーに気を使う傾向なんです。

早稲田精神とは何か

心の故郷これこそ早稲田

そんなわけで早稲田は大体肌ざわりは悪いがジーンとくるものがある。マ、浪花節的でもないでしょうか……。

それで、「早稲田精神とは何か」とマイクを突きつけられ、スバリ一言、なんていわれるのは、僕の感じていた早稲田なんです。僕と違う考えを持っている人が早稲田にも沢山いるんで、それが早稲田の早稲田らしきところなんで、統一された、システマティックに、イデオロギーじみていいからおせるもんじやないんだ。慶応さんは「独立自尊」という言葉があるが、早稲田は「都の西北」を三番まで唱わなければ出てこないんだ。それも、大島国というのが、朝鮮取られ、台湾取られ、樺太取られて何が大島国なんだといったら、大浜元総長が「それは目で見た地図じゃないか、大島国というのは地図じゃない、精神なんだ、精神的に大きい島国なんだ」といってくれた。僕

は大浜さんを尊敬した。

それで一〇〇年なんです。僕は文部省から頼まれて、各大学を比較したんですが、つまるところ大学は法律で出来ていないので、私立大学は役人が造つた精神となつていて、慶応さんは福沢先生が創りになって「独立自尊」という言葉で表し、早稲田は大隈老侯のパーティティが早稲田精神として受け継がれているわけで、国立の大学にはこういう教育の精神が残念ながら無い。早稲田はユニークな

『紺碧の空』記念碑

国分寺校友会の協力に感謝

六月六日のサロンに、総会にも来賓として御出席頂いた、川崎早大校友会の安倍氏が、同会の土會氏を伴つて御出席下さった。土會氏は昭和八年経済の出身、昭和七年の応援部主将、現早大春秋会（応援部OB）の副会長で、会長藤井丙午氏とともに一昨年（五一年一〇月）応援歌「紺碧の空」記念碑建設に尽力された方です。本会報五号に建設趣意書を掲載したこと及び有志会員よりの献金に対するお礼を兼ねて報告に來られた。土會氏のお話の概要をここに紹介し、卒業年度に応じた早慶戦の思い出を新たに、一層の母校愛を培うに役立てたい。

早慶戦で慶応が「陸の王者」を作つて歌つたのは昭和二年でした。それまで両校の戦績は早稲田の方が良かったのですが昭和二年「陸の王者」が出來、腰本監督が宮武投手等を擁し早稲田を圧倒し、形勢不利が続きました。そこで早稲田にも「陸の王者」に負けない応援歌を作ろうということになり、校内で歌詩を募集したところ、

クな大隈老侯のパーティソナリティによって出てくるんですが、ありていに見ますと、こんな不揃いな、こんな雑然とした、泥クサイ大学はまああまり無いのですが、一〇〇年の時代の変化を乗り越えて来ているところは少くとも心のふるさとがあるわけでは早稲田に入り、早稲田を出て良かったと思う人になつてもらいたい。やっぱり東大の方が良かったと女々しく考える人にはなつてもらいたくないと思ふんです。貴重な時間を僕のような者の話を聞いて下さつて有難う。（文責 須田茂雄）

多数の応募作品の中から住治男君の「紺碧の空」が選ばれ、当時は無名の作曲家であった古閑裕而氏がこれに曲をつけ、早稲田大学第六応援歌として誕生。そしてこの年を境にして伊達投手等の健斗により再び慶応を圧倒。爾來四五年、今日では第一応援歌として早稲田にある者に常に歌い継がれているわけだ。

昭和五〇年秋、早大春秋会第三〇回例会において、「紺碧の空」の記念碑を作る話が出まして、五〇年を期してということになったのです。ところが、その集りの直後物故される方々が出てきて、古閑裕而さんも高令なので何んとかしてご存命中ということ、急遽四五周年記念に切り換えまして昭和五一年の一月一日に皆さん方の協力を得て除幕の運びとなつた次第です。いわゆる寮歌等の記念碑は数々ありますが、これほどのものは類を見ないと自負しております。昭和五〇年頃ですが、慶応の方で「陸の王者」の五〇周年記念事業として何かやろうと企画されたらしいですが、「紺碧の空」のこの記念事業を聞いて、残念先を越された。ということ、中止になつたことなのです。

← ワセダサロン



S 37 長谷川町子

☆ 六月一六日

総会の反省会という形式になりました。当然のように動員校友の数が、もう少し多くならないだろうかというところ。特に現在学生である方々に積極的に働きかけて、手伝ってもらうにはどうするか。卒業年度の新しい方や女子の方々に参加頂いて総会を盛り上げてもらうにはどうするか。折角、こんな良い会場があるので、五〇人位ではなく、もっと大ぜいの人にお集り頂か



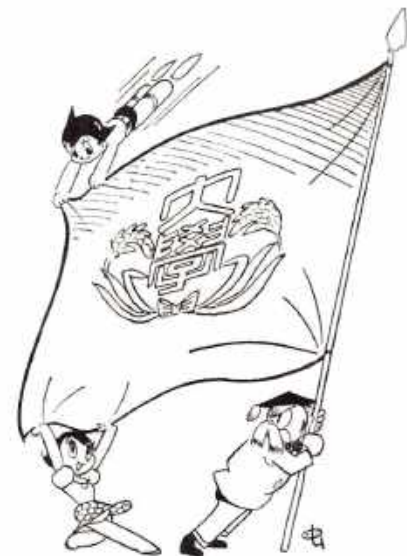
S 40 富永一朗

なくては勿体ないような気がします。企画、総務関係幹事に、もうひと骨折ってもらって、総会、忘年会の催し等に出来るだけ趣向をこらして、魅力あるものにして頂くことをお願いしました。

その他、年代差を越えて楽しめること。一昨年実行して好評を博した一日陶芸入門（谷田成雄氏の西和陶芸教室）のようなご家族全員で楽しめるようなこと、若い方々（勿論、気分的にもです）のボーリング競技会、ダンスパーティー、ゴルフコンペ等々趣味を生かした集会等も、何とかやってみたい等々の発言がありました。

☆ 川崎早大校友会の女倍、土倉両氏が、八時頃になって、汗をふきくお見えになられ、別項のお話がございました。その他、いろいろの学生時代のスポーツの話に花が咲きましたが、土倉氏が「紺碧の空」の詩を朗詠の先生に作曲？して頂いたという朗々と詠じられ、節廻しを書き込んだものを我々にも是非やって

○ フランスの古い城を見

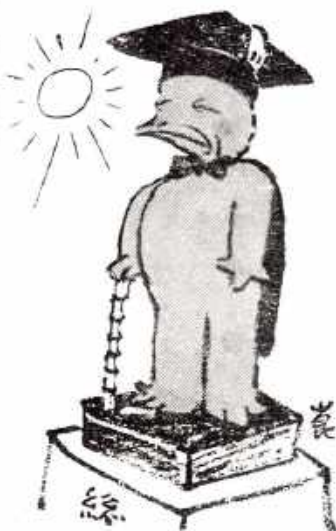


S 39 手塚治虫

○ 今度は女房を連れての気楽な旅でした。英国のバックingham宮殿は変わりましたね、変わったといってもバックingham宮殿が変わったのではなく、前に私が訪れた時は、静かなただづまいの中に、衛兵が例の玩具のように動かないで立っており、囲りに人影もまばらであったのが、今度は観光のバスが止まると、我先きにと群がり、常に黒山？の観光客に一挙手一投足を見守られています。やはり昔の落着いた雰囲気良かったですね。

○ 私が最も感銘を受けたのは、ギリシャやスペインの遺蹟でした。世の中が新しく急変する中で、これらの遺蹟は何世紀

☆ 七月二一日



S 33 清水 昆

古いものを大切に、型を壊さないよう保存しているのですが、その古城のところに日本語で看板を出して土産物売っているんです。何かそぐわない感じですが、イタリアでは、何処へ行っても、日本の観光客がバスで着きますと、日本語で客引きが始まり、そして見事に日本人がその商人を相手にして土産物を買うんです。まさに、ヨーロッパの土産物屋は、日本客を主として商売をしている観があり、若し、日本人がこのように海外旅行をして、土産物を買いたくなくなったら、外国の土産物屋は倒産してしまうだろうと思います。日本に溜ったドルべらしの一端を担っているわけですが、それにしても二五年前にくらべて何か戸迷いしてしまいます。

下さいと置いて行かれました。

に行き驚きました。フランスという国は

も少しも変らず、現代と過去を完全につなぎ止めていくれ、まして、その崇厳さや規模が資本主義発生前何世紀もの昔奴隷による文化の遺産として、近代文化の中に厳然とその価値を保持していることに驚嘆させられました。



S 32 横山隆一

○ 日本の円が本当に強くなりました。今度は単なる観光旅行なのですが、この位強くなると、高い日本の物価の中で遊ぶより、海外旅行は比較的安く上ります。それにしても、ドルは何処の国に行っても、安定し、自由に通じますので世界中に溢れています。この様に世界にバラ撒かれていくドルの量は相当なもので、安い安いといってもドルの力はまだまだ衰える気配は見せていません。今年の夏も約五〇万人位の方が海外旅行に出掛けるそうですが、エチケットだけは忘れずに充分楽しんで来てもらいたいと思います。

会員だより



◎ 校友、若月啓功氏（昭34 建築・若月建築事務所々長）の設計による国分寺市第四番目の図書館・公民館（もとまち図書館・公民館）が九月中旬に開館されました。場所は東元町二丁目で、国分寺中央病院のそばです。

◎ 鶴沢 靖氏（昭37 商・BS勤務）は今度、町田市木曾町一九五〇一八へ移転されました。氏は国立に住んでおられましたが国分寺校友会に属され、得意の写真撮影で、総会に、忘年会にと、集会のたびに大活躍をして頂き、皆様のお手元にも、きつと氏のスナップ写真をお持ちの方があつたです。

◎ 海田 稔氏（昭45 社会）横浜市港北区篠原台町二〇一六に移転されました。

五三年度忘年会は二月二日(土)

例年の通り、二月二日（土曜日）に五三年度忘年会を行います。場所、時間、費用等は未だきめておりませんが、あなたの予定表の中に書き入れて下さい。詳細ははがきで通知します。

今年も福引きとオークションを行います。オークションは例年盛会で、本当は高く買って頂いて会の運営資金にしたいのですが一昨年あたりから、経済界の不況が我がオ

ークションにも響きまして、大分安く買いたたかれてしまいます。校友の中には、オークションで忘年会の元をとると称して風呂敷持参の方もおり、昨年の例では、富田吉雄氏（富田石材代表）の大理石の茶壺、山口勉氏（佐々木硝子勤務）のガラス器、梅田幹事長夫人の手編みのガーテガン等が目玉商品でした。例年五、六〇点の出品があり、珍しいものも多く、出品者が知恵をこらして出してくれませんが、市価の半額にも満たない価格のときもあり、申し訳なく思いますが、このことでワイワイガヤガヤと会を盛り上げてくれるので助かります。今年も福引きやオークションに趣向を凝らしたいと思っておりますので、どうぞよろしく、また、オークション出品物は今から心掛けておいて下さい。（連絡先（二三）三八八四 梅田浩正）

お願い

会報を出しますと必ず会費のお払込みのお願いをして申し訳ないのですが、会報を出したり、お送りしたり、諸通知等で財政は決して楽ではありません。昨年度は名簿に広告をとりまして、印刷費を差引いて大分潤いました。また、オークションの売上金等でもプラスが続いて、一寸ばかり残りましたが、いろいろやりたいことが多く出来ません。五三年度年会費金一、五〇〇円を左記ルートを通じて納入して頂くようお願い致します。

郵便振替口座

東京・一八八七五五

第一勧銀国分寺支店・普通預金口座

二七五・一三二五一一八

多摩中央信用金庫・普通預金口座

01-MKT1011A

落ち稲ひろい

☆ 以前は、東入を落ちて、早稲田に入らなくても、一度早慶戦の応援をすると、生粋の早稲田っ子になったもんです。戦前、早稲田に入って高文試験（上級公務員試験）を受けようとした者を、何故東入へ行かないのかといつて安部球場でなぐつたとも聞きました。しかし、現在、司法試験や上級公務員試験の合格率が東入に次ぐと聞いて複雑な心境になります。確かに、現代では目立ったスクールカラというものは薄れたかも知れません。昭和一六年頃でした、正服正帽で大阪の駅前立っていました。見知らぬ紳士に声を掛けられ、食事をご馳走になり、学校のことをいろいろ聞かれました。今でも学校は良いなと思ひ出します。今の学生さんはあまり正服正帽ということがないので、こんな恩典は少ないかも知れません。のれんを背負って歩いてみると、悪いことは出来ませんが、恩典はあるものです。のれんを大事にして欲しいと思います。（S）

早稲田大学国分寺校友会・会報 第八号

昭和五三年八月三十一日 発行

早稲田大学国分寺校友会

国分寺市東元町1-38-124

梅田浩正 編集

電話 〇四二三（二三）三八八四

須田 茂雄 編集

黒川 清知 編集